

2016年度 さくらっこ保育園事業報告

(1) 保育の理念、方針、目標

- ① 保育理念：「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛しなさい」という聖書のことばをモットーとし、神様に愛されていることを感じられる環境の中で、違いを豊かさとして受けとめられるこどもを育てる。
- ② 保育方針：神様に与えられた一人ひとりの子どもの個性を大切にする。
子ども・保護者の持つ文化を大切にする。
互いの違いを豊かさとして受けとめられる環境づくりに努める。
友だちを大切にする仲間づくりをする。
- ③ 保育目標：しなやかなからだづくり。
意欲のある子ども。
思いやりのある子ども。
自然と平和を愛する子ども。

(2) 定員並びに在籍数の推移（定員12名）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
0歳児	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
1歳児	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
2歳児	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
月計	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144

(3) 保育時間

7：00～20：00（18：00～20：00は延長保育）

(4) 職員体制

園長：1名 保育士：4名（うち1名主任） 栄養士：1名 非常勤職員：3名
嘱託医：小児科；高良憲光（高良医院）、歯科；佐々木矩雄（佐々木歯科）

(5) 保護者の自主活動

さくらっこ保育園には組織としての保護者会はないが、クリスマス会を保護者主催で実施した。卒園の集いでも多くの協力があつた。

(6) 設備等の整備状況

2年目で大きな修繕等はなかった。ワンフロアのため予備の部屋がなく、雨天時の保育や、グループ活動には工夫が必要であった。倉庫が狭く収納には苦慮した。保育室以外のすべてのスペースが倉庫状態になっている。

(7) 経営・運営状況

さくらっこ保育園は小規模保育事業 B 型に分類されている。法令上は保育士資格を持つ職員が1/2以上とされているなか、当園では3/4以上の配置で市の加算額が増額されている。しかしながら、園児定員の上限が19名と決まっている中、さくらっこ保育園は法的必要面積が不足し12名定員となっている。公定価格や市助成が園児数に連動しているため、必要職員数に対する運営費の額が低く、安定経営とはいいい難い状況が続いている。決算状況は、繰り入れがなければ赤字決算ということになるが、職員の勤続年数のバランスや小規模保育事業の運営費加算項目設定が少なからず影響している。

なお、職員の絶対数が少ないため、研修にはあまり参加することができなかったが、次年度は工夫しながら少しずつでも参加できるようにする。

(8) 卒園の集い及び新年度の入所状況

去る3月25日に第2回卒園の集いを実施し、5名の卒園児を無事に送り出すことができた。5名はそれぞれ近隣の認可保育園3歳児クラスに編入した。7名の進級児に5名の新入園児を加え、3年目も定員通りの入所となっている。

(9) 小規模保育事業の現状と展望

保育そのものは、小規模のため何よりも家庭的な雰囲気は保たれている。12名の園児は、年齢・月齢差が大きくても兄弟姉妹のように1年間育っていった。部屋割りがないので、1年間同一の空間で共に成長する姿を私たちは見てきた。言ってみれば、小規模保育は手厚い保育が可能となるし、そうしなければならぬのが小規模保育事業といえる。保護者との人間関係もより近く、常に生の声を聞くことができ、園運営にも積極的に協力してくれた1年間であった。規模が小さい分、職員体制は常勤職員6名、非常勤職員3名、計9名と所帯がとても小さい。桜本保育園と同様に、休憩や休みが取りづらく、本年もまさに総力戦で1年間の保育を継続してきたと思う。連携施設（桜本保育園）との交流も一昨年とほぼ同様に実施された。

課題をあげるなら、やはり2歳児終了後の転園先の確保である。連携施設の桜本保育園を希望すれば、そのままほぼ入園できるが、希望しないケースでは近隣の協力園から転園先を探すことになる。協力園は在籍児持ち上がり状況によって変動するため、年によって異なる。園見学に訪れる保護者が一番気にする点の一つといえる。川崎市内の入所希望者の動向次第では、協力園がなくなる可能性もあり今後の保育行政を注視する必要がある。